

山形県公立高等学校入学者選抜方法改善検討委員会 第4回検討委員会記録（概要）

日 時：令和5年11月6日（月） 午後2時から午後4時

会 場：村山総合支庁 402会議室（4階）

出席者 検討委員 8名（欠席2名）

事務局 9名

1 開会

2 県教育委員会挨拶

3 協議

（1）検討課題について（協議）

① 継続して検討するものについて

ア 各高等学校のアドミッション・ポリシーに沿った入学者の受入れについて

イ 受検機会の改善について

【ア、イの具体案】

（ア）名称について

前期（特色）選抜

後期（一般）選抜

意見者	意見概要（回答または対応）
委員	前回の検討委員会で、大学入試との違いはどうか、現場の先生は混乱しないかなどの意見があった。その後、様々な方と話し、名称について考えていたが、この名称を見たときに、わかりやすく納得できた。
事務局	本日欠席の委員から、ご意見を頂戴している。「前回の検討委員会で出された意見を反映した名称となっている。」
委員長	名称についてはこれでよろしいか。（了承） 括弧は読まずに「前期特色選抜」「後期一般選抜」と読んで協議を進める。

（イ）実施時期

前期（特色）選抜

A日程かB日程のいずれかを学校が選択する

A日程 大学入学共通テスト後すぐの火曜日（1/16～1/22）

B日程 2月初め（後期（一般）選抜の本検査3/7から遡って設定）

後期（一般）選抜

現行の一般入学者選抜と同じ（本検査3/7、追検査3/12）

意見者	意見概要 (回答または対応)
委員	A日程のスケジュール感として、中学校の立場として、抵抗なく良い案であるとは言えない。年が明けて間もなく願書受付となる。学校現場は年末年始休業を返上して対応することになり、様々な意見が出るのが考えられる。なるべく早い日程での実施という意見を踏まえての案であるのはわかる。令和11年は願書受付が12月となり、成績処理や三者面談等が大きな負担や難しい面が出てくる。スケジュールとして年末年始を考慮することや、中学校での受験指導に影響があまりでないようお願いしたい。
委員	普通科を含めた受検機会の改善であり、業務負担が軽くなることはないと感じている。それ以外の出願方法や受付の仕方での簡略化や短縮化等は検討いただきたい。成績算出は12月20日頃を見込んで現在は進んでいるので、大変ではあるが無理だとまでは言えない。ただし、令和11年度は大分早まるので苦しいだろうと思う。
委員	事務局案に賛成である。早い時期の設定でよかったと思う。年度によっては余裕がない日程ではあるが、受付期間の短縮や入選処理(受付から検査日)の期間の短縮などの話があった。A日程についても、高校側は経験を蓄積してきたので、対応は可能と思われる。
委員長	事務局で令和11年度について何かありませんか。
事務局	専門委員会でも同様の意見が出た。令和11年度はこの案の通りであれば、1月16日が実施日という設定になるが、1週遅らせて1月23日を実施日とするという考えもある。中学校や高等学校の業務負担等も考えて、日程については柔軟に対応することを考えている。
委員	A日程とB日程で、受検から内定通知までの日数に差があるのはなぜか。
事務局	各高校では日程、検査内容、募集人員など前期(特色)選抜の全体を見て、総合的に決定していくものとする。A日程を選択する学校は、定員を多く設定する学校、専門学科の学校と想定している。受検者が多くなることにより、ミスをなくし業務負担を少しでも分散させるという観点から日数を多く設定している。B日程を選択する学校は、大学入学共通テストを多くの生徒が受検する学校で、募集人員の設定はあまり多くはないことが想定され、これまでの推薦入学者選抜と同様4日間と設定した。
委員	あくまで原則ということで、令和11年度については柔軟に対応可能と聞き、事前に説明をしておけば現場での混乱はないと思う。
委員	中学校の立場からすると面接指導や作文指導をするのであれば1つの日程の方が指導しやすい。A日程、B日程と二つに分かれた経緯について、専門委員会ではどのように議論がなされたのか質問したい。B日程は大学入学共通テストを多くの生徒が受検する学校を想定しているとの説明であったが、そのような学校の方が、倍率が高くなると思うが、(受検から内定通知まで4日間という設定で)本当に大丈夫か。

事務局	<p>専門委員会でもA日程、B日程の両方について議論をしたが、どちらか1つにするというのは、それぞれの学校で状況が違うため難しいという意見であった。中学校側からすると1つの日程の方が指導しやすいという意見がある一方で、高校側としては生徒が大学入学共通テストに全力を注いでいる中でA日程の準備をした場合、遺漏があるかもしれないという意見もあった。入学者選抜全体を運営する教育委員会としても1つの日程の方が、運営しやすいが、各高等学校で状況が違うために、選択できるような案とした。後半のご意見については、貴重なご意見を頂戴した。各学校へも伝える必要があると思っている。</p>
委員	<p>私学の入選日程を想定して案が出されている。A日程については今回初めて示された日程だが、どのようにしてA日程が設定されたのか経緯を教えてください。</p>
事務局	<p>A日程については、前回の検討委員会での意見を踏まえて設定した。「日程がもっと早まらないのか」「1月中旬だと公立高校との志願者が重ならない私学の推薦等と同じ日程であり、私学の面接等の指導と同時に公立高校の指導ができる」などの意見を踏まえた。</p>
委員	<p>私学でも大学入学共通テストのときに推薦入試等をしているが、年明けすぐの出願と1月中旬の試験への指導が中学校では大変であると聞いている。そのため試験内容を工夫して実施している。A日程については、中学校の先生方の12月や1月の業務が大丈夫か心配である。</p>
委員	<p>見通しが必要と思った。A日程とB日程を各高校が選択した場合に、どちらかに集中してしまわないのかなど、見通しがあればお聞きしたい。</p>
事務局	<p>A日程に関しては、専門学科等の大学入学共通テストの影響をあまり受けない、募集人員を多く設定すると考えられる学校が選択する、B日程は大学入学共通テストの受験者が多く、後期(一般)選抜の募集人員を多く設定する学校が選択すると考えている。各学校がそれぞれの状況に応じて柔軟に選択することが必要と考える。</p>
委員	<p>そのような見通しであれば、この日程設定は妥当であると思う。</p>
委員	<p>親の立場としては、受検する日はこの日、とわかっている方がいい。受検の日程は何年前に公表されるのか。</p>
事務局	<p>入学者選抜については2年前ルールがあり、受検する中学生が2年生の時にお知らせするようにしている。令和6年度入選については、令和4年12月にお知らせしている。</p>
委員	<p>中学2年生の12月ということでしょうか。募集人員が定員の何%になるのかということもその時にならないとわからないということか。</p>
事務局	<p>受検生に不利のない時期にお示しできるようにしたい。</p>

委員	前期（特色）選抜について、これまでの推薦入学者選抜に比べ、多くの生徒が志願すると考えられる。普通科について、これまで一般選抜を受検していた全員が前期（特色）選抜に出願し、不合格だった生徒が後期（一般）選抜に出願ということも考えられ、学力検査を課す学校も出てくることが考えられる。B日程の受検から内定通知まで4日間というのは短いのではないかと。
事務局	後期（一般）選抜から遡って日程を設定している。各高校では、出願資格や募集定員、日程について前期（特色）選抜の全体を見て選択することを考えている。また、B日程を早めてしまうと、私立高校の入選日程と重なってしまうところも出てくる。私立高校の入選にあまり影響を及ぼさないことは大切だと思っている。ご指摘いただいた点については、各高校に留意いただくよう伝えていく必要があると考えている。
委員	私立高校の入選と公立高校の入選が重ならない方がよいということと、私立高校の作文や面接等の検査内容と公立高校の検査内容が同じような内容であれば時期を重ねてもらおうと指導がしやすいということを申し上げてきた。A日程、B日程の2つの日程となると、中学校の立場からは、新しいものが2つ増えたという感じがする。A日程のみであれば望ましいが、A日程、B日程の2つとなるのであれば、B日程1つの方がいいのではないかと考える。
委員	2つの日程になることについては、前回の検討委員会の議論を踏まえており、本日詳細な説明を聞いたので理解できる。2年前ルールがあるとお聞きしたが、各校への周知や保護者や子供たちのことを考えると、令和8年度入選について、周知等のスケジュールについて懸念がある。
委員長	2年前ルールということでこれまで公表をしてきたので、丁寧な説明をして進めていただく必要はあると思う。
委員	受検する立場からすると、A日程はこれまでになかったものなので、丁寧な説明が必要である。A日程とB日程について、どの高校がどの日程という蓋を開けてみないと分からない状態で、どの生徒にどういう指導をしたらいいのか、面接等の指導を1月の冬休み明けから2月の初めまでずっと続けていかななくてはならないことが予想される。1月は入選に振り回される月になるという意見を中学校から頂戴することになると思う。この案で決まった場合は、どのようなスケジュールで動いていかなければならないかを検討しなければならぬと考えている。
委員	新たなことを始めるときは新たな挑戦が必要だと思う。中学校で指導するという視点は必要だが、子どもたちが主体的に選択していくというきっかけにもなっていくのではないかと。
委員	この入選改善の方向性として、アドミッション・ポリシーに沿った入学者の受入れや受検機会の改善があった。新しい試みには新しい挑戦が必要。困難も生じる。高校側も対応していかななくてはならないと考えている。原案の方向で進めてはいかがかと思う。

委員長	ただいまご意見を頂戴したことも踏まえて、原案の通り進めていきたいと思いますが、よろしいか。(了承)
-----	---

(ウ) 検査内容

前期 (特色) 選抜

県で前期 (特色) 選抜における検査内容を示し各校が選択する

後期 (一般) 選抜

国語、数学、社会、理科、英語の学力検査及び適性検査等

意見者	意見概要 (回答または対応)
委員	前期 (特色) 選抜の「5 その他」の「学校ごとの学力検査」について、当該校で作成する、でいいのか。
事務局	学力検査というと一般選抜の各教科の試験を想像するかもしれないが、学力の定義が変化してきており、知識、技能に加え主体性、思考力や判断する力、学びに向かう態度などが学力と言われるようになってきた。前期 (特色) 選抜においては、アドミッション・ポリシーに沿った検査内容として、各学校が考えることになる。
委員	大変難しく、言葉で聞いてもイメージが思い浮かばない。受検生や保護者も含めて、混乱や不安がなくなるようにしてほしい。
委員	4の発表について、どの程度のものを想定しているのか。
事務局	連携型入学者選抜を実施している新庄南金山校や小国では、中学校での学びを発表していただいている例がある。そのようなことを想定している。
委員	私立高校の入選でも取り入れているところがあるが、総合的な学習の時間で行った探究的な学習の取り組みの発表ということか。時間はどれくらいか。
事務局	10～15分程度で、学んできたことを中心に発表してもらっている。
委員	以前の資料ではそれぞれの方針に対して検査の例が挙げられていたが、今回は検査内容のみ5つ挙げられており、わかりやすくなった反面、方針が陰に隠れないといいなと思う。
事務局	非常に大事な視点であり、アドミッション・ポリシーがあって、それを見るためにどのような方法が、そしてどのような内容がよいのかを学校はよく検討し、妥当なものを選択することになる。そのようになるよう、学校を指導していきたいと思う。
委員長	方向性として、原案の通りでよろしいか。(了承)

(エ) 志願資格

前期 (特色) 選抜

各学校の特色及びアドミッション・ポリシーを踏まえ、各学校で定める

(成績 (評定)、スポーツ的活動、文化的活動、ボランティア活動、取得資格、その他)

合格した場合は必ず入学する

後期（一般）選抜

現行の一般入学者選抜と同じ

意見者	意見概要（回答または対応）
	（特になし）
委員長	方向性として、原案の通りでよろしいか。（了承）

（オ）募集人員

前期（特色）選抜

定員の5%以上50%以内とし、各学校が設定する（ただし、音楽科は60%程度、体育科は80%程度）

後期（一般）選抜

入学定員から前期（特色）選抜、中高一貫教育（連携型）における連携型選抜の合格内定者数、及び中高一貫教育（併設型）の併設中学校からの入学予定者数を減じた数

意見者	意見概要（回答または対応）
委員	定員の5%以上50%以内とあるが、すべての学校、学科で募集人員を示すのか、学校ごとに示すのか。
事務局	学科ごとに設定するのか、学校ごとに設定するのかという質問と受け取ったが、受検機会の改善ということもあり、全ての学科で設定することとしたいと考えている。
委員	前期（特色）選抜は、すべての学校・学科で行うという理解でよろしいか。
事務局	受検機会の改善ということで、受検機会が1回ということはないようにしたいと考えている。
委員長	方向性として、原案の通りでよろしいか。（了承）
委員長	それでは、今回頂戴したご意見を踏まえ、検討委員会として報告書にまとめていきたいと思う。

ウ 入学定員の充足率向上

【ウの具体案】

（ア）県外志願者受入れの拡大

県外志願者受入れの拡大に向け、要件の緩和を検討する。

- ・「直近3年における入学定員に対する合格者数の割合が連続して8割に満たない学校」を、令和7年度入選から「直近2年における入学定員に対する合格者数の割合が連続して9割に満たない学校」としたい。

（イ）前期（特色）選抜の一部先行実施

入学者選抜方法の変更については令和8年度入学者選抜を予定しているが、入学定員の充足率が定員に満たない普通科において、令和7年度入学者選抜から、受検者への影響等を考慮しつつ、前期（特色）選抜を実施することを検討する。

(ウ) その他

その他の方策については、今後の充足率の推移を見ながら継続して検討する。

意見者	意見概要(回答または対応)
委員	(ア)について、要件を緩和することでどれくらいの学校が対象となるのか。また、(イ)前期(特色)選抜を一部先行実施する際の日程は、A日程かB日程を選ばせるのか、B日程とするのか。
事務局	(ア)について、現在の要綱での実施となる令和6年度入選で対象となるのは、18校21学科となる。そこに小規模校の県外志願者受入れの要綱での6校6学科を含めると、対象となるのは24校27学科となる。原案のとおり要件を緩和すると、令和6年度入選の結果によるが、分校も1校と数えると全体で45校あるうち、34校40学科、全体の75.6%が対象となる。しかし、対象とはなるものの、実際に県外志願者を受入れるかどうかは、各学校の状況や地域との連携など受入れ体制の構築が必要となることから、学校ごとに判断されるものとする。
事務局	令和7年度に前期(特色)選抜を先行実施すると決まった場合には、推薦入学者選抜と同じ日程で実施したい。
委員	「先行実施すると決まった場合には」とあったが、いつの時点で決まるのか。
事務局	この検討委員会で審議いただき了承いただければ、2月の教育委員会で諮って進めていきたい。
委員	2月の教育委員会で諮るとなると、2年前ルールはどうなるのか。
事務局	そこは我々も議論したところである。学校が生徒募集に対して課題を持っており、先行実施ができる(対応できる)学校としたい。さらには、受検生への影響(検査内容等)を十分考慮して実施したい。
委員	もしこれが実施されたら、私の子供は当事者になる。2年前ルールが守られないことになるように思う。前期(特色)選抜、後期(一般)選抜ということを保護者も子どもも理解していなければ、なかなかついていけない。(イ)が承認されれば、説明して理解する時間が必要である。そのことも含めて検討いただきたい。
事務局	ご指摘の点は大きなことであると捉えている。前期(特色)選抜の先行実施は、充足率が定員に満たない普通科で、生徒募集に課題を持っている学校での実施を考えている。実施に向けては、丁寧に説明していく必要があると考えている。
委員	(イ)の対象となる学校の割合はどれくらいか。
事務局	割合についてはこちらでも学校数は出していない。普通科の学校においても生徒募集に課題を持っている学校があり、対象となった学校で前期(特色)選抜への対応が可能かどうかも含め、実施の有無を検討することになる。

委員	定員に満たないというのは、令和6年度入選でのことを指すのか。
事務局	検討委員会で認めていただければ、条件をしっかりと検討しなくてはならないと考えている。(イ)については、ほんの一部の学校が対象となると認識している。
委員	推薦選抜が前期(特色)選抜に変わっただけと捉えられないようにとの専門委員会での意見もあったが、こういう方策があるよと先に示すような理解でよろしいか。
事務局	その通りです。
委員長	充足率の向上という課題に向けて、われわれは動いていかなくてはならない。そういう中でやれることをやっいてこうという考えであると思う。
委員	ごく一部の学校を対象とすることが予想される中、まだ決定しない制度を、2年前ルールを反故にして、令和7年度入選から実施することにどれだけの意味があるのか。現場の校長がどのような判断をされるのかわからないが、現場の混乱や受験生の混乱を考えると、無理に令和7年度から実施する必要はないのではないかと考える。
事務局	令和3年度に学校の社会的役割(スクール・ミッション)を県教育委員会が策定した。令和4年度にはその学校の社会的役割を踏まえ、三つの方針を各学校が策定し広く公開した。その一つが、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)である。公表をしたわけなので、できるのであれば、早め実施していきたい。まずは受検生への影響が大きく出ないことを考慮して、できることから周知して、実施していきたい。
委員	2年前ルールは、そういう状況であればこだわらないということ、そしてそれが前例となる、それでもやる価値があるのかということ意見を申し上げた。充足率が定員に満たないのは入選制度だけの問題ではなく、むしろそちらの方が大事だと思う。そのことも踏まえて慎重に検討いただきたい。
委員	令和8年度からの実施に向けて中学校の先生方に丁寧に説明して進めていくのに、一部の学校が先行して実施していくことが腑に落ちない。令和8年度からの実施に則った方が理解してもらえらると思う。
委員長	2年前ルールが反故になるのではとの意見があるが、事務局いかがか。
事務局	充足率の低下について、少子化が急速に進んでおり、充足率は教育活動に多大な影響を及ぼす。全部の学校ではないが、一部の学校ではその影響を大きく受けており、先行実施ができるのであれば実施したいという学校があるのではないかと考えた。広く意見を頂戴したい。
事務局	1学年4学級や3学級規模の普通科の学校で1クラス以上の大きな定員割れを起こしている学校をイメージしていただきたい。ある程度の規模の学校で学校生活を送りたいと希望をもって入学したけれども、入学してみたら大きく定員を割っているという状況を何とかしたい。充実した学校生活を送らせたいという学校の思いが背景としてあることも理解していただきたい。

委員長	2年前ルールを反故にするわけではなく、あくまでも今回限りのことという理解でよろしいのではないかと考えますが、いかがか。
委員	以前は普通科も推薦があったが、なくなった。それがまた再開される。アドミッション・ポリシーに沿った選抜を実施するためという説明等の周知をしっかりとする必要がある。
委員長	これまでの意見を踏まえて丁寧な説明が必要と考えますが、原案の方向で定めてよろしいか。(了承)
委員長	それでは、今回頂戴したご意見を踏まえ、検討委員会として報告書にまとめていきたいと思う。

(2) 最終報告(案)について(協議)

意見者	意見概要(回答または対応)
委員長	文章について、まとまりましたら皆様に見ていただくということによろしいか。(了承)

(3) その他

① 今後の進め方について

4 その他

5 閉会